

P2-112

米国の磁気圏衛星 MMS 搭載低エネルギーイオン観測装置 FPI-DIS の開発 Development of FPI-DIS on Magnetospheric Multi Scale

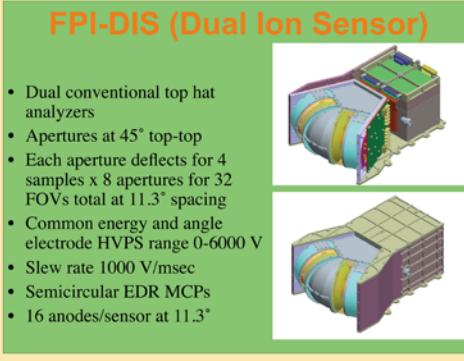
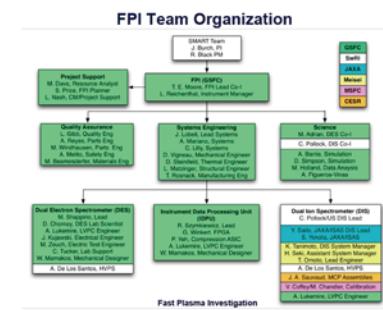
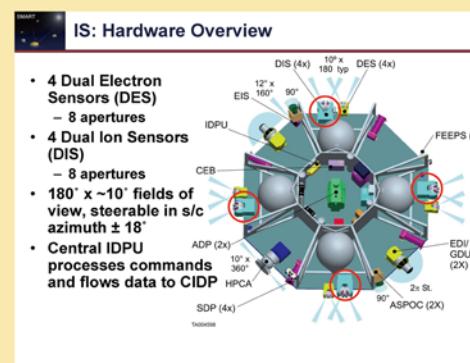
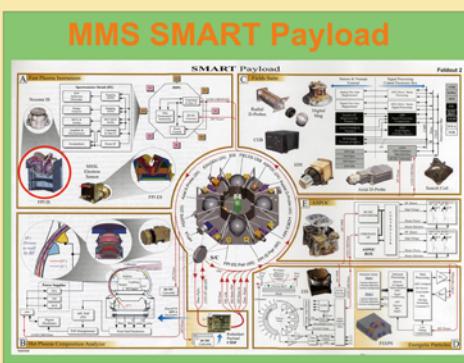
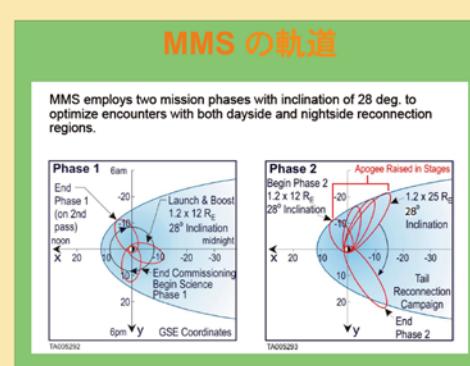
○ 斎藤義文 横田勝一郎 向井利典 浅村和史 藤本正樹 篠原育 高島健 中村正人 (ISAS/JAXA)

星野真弘 (東大理) 三宅 亘 (東海大) 町田 忍 (京大理) 長井嗣信 寺沢敏夫 (東工大理)

関華奈子 (名大 STE 研) 岡光夫 (SSL, UCB)

Y. Saito, S. Yokota, T. Mukai, M. Fujimoto, I. Shinohara, M. Nakamura, K. Asamura, T. Takashima
W. Miyake, M. Hoshino, K. Seki, T. Nagai, S. Machida, T. Terasawa, M. Oka and J.A. Sauvaud

2014年11月打ち上げを予定して進められている米国の編隊飛行磁気圏観測衛星計画MMS(Magnetospheric Multi Scale)に、低エネルギーイオンの観測装置FPI-DISの担当となって計画に加わっている。16台のフライタ品の米国へのデリバリーが無事完了し、現在は米国で衛星に組み込んでの試験が実施されている。現在の状況や今後のスケジュールなどについて報告する。



Phase	Date
Phase A Start	September 2003
Bridge Phase Start	May 2005
Phase B Start	February 2008
Phase C Start	May 2009
Phase D Start	May 2012
Launch Readiness Date	November 2014
Phase E Start	March 2015 (L+150 days)
Phase E End	February 2017

まとめ

2014年11月の打ち上げを予定して進められている米国の編隊飛行磁気圏観測衛星計画MMS(Magnetospheric Multi Scale)に低エネルギーイオンの観測装置FPI-DISの担当となって参加している。

現在はPHASE-Dで、これまでにフライタモデル全16台の製作・試験・米国へのデリバリーを完了し、現在米国で衛星レベルの試験が実施されている。

「MMSは高時間・空間分解能観測で新たに電子スケールの別世界への扉を開く」